

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

平成29年 学校教育だより

December **12** 第335号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線623)



絵の前で語らう

写真提供／富士見台中学校

友情

西中学校 二年

徳光 暖乃

目には見えないし

触ることもできないけれど

それは

かたくて熱いものだというのを

私たちは知っている

それは簡単には作れないし

時には壊れてしまう

でも

私たちはまた

それを信じて

今日も進んでいく

生活科見学に行こう

十月末に針ヶ谷小学校では、「生活科見学」を実施しました。「生活科見学」とは、一・二年生という二つの異なる学年が協力して合同で行う校外学習です。「生活科見学」は、ただ一日を二つの学年でともに行動するのではありません。せつかく校外に出て、しかも合同で行えるその機会を活用して、子どもたちの成長を最大限促すため、その日に向けた取組を夏休み前から行ってきました。

それは、七月の学級活動の時間に、一・二年生合同でゲームをするという形で始まりました。二期は、二年生が生活科で作った作品を使って一年生と一緒に遊んだり、同じく二年生が国語の授業で作成した絵本を一年生に貸し出すといった機会を意図的に作り、二つの学年の関係を深めてきました。そうした取組を行った上で、当日を迎えます。低学年ブロックの教員が、何を考え、どのようなねらいで活動してきたのか、実践報告という形で紹介します。

年間指導計画

本校の年間指導計画には、二期に「生き物と仲良し」(八時間)があります。その内容は、「生活科見学の準備をしよう」の三時間と、「生活科見学に行こう」の五時間からなっています。時数としては少ないのですが、一年生と二年生が一緒に活動する大切な授業ですので、他の単元や学級活動なども活かして準備を進めていくことにしました。学習指導要領の内容(4)の「公共物や公共施設を利用する活動」と(6)の「身近な自然を利用したり身近にある物

わかる授業 二 小学校 生活科 二

「生活科見学」への取組 ～具体的な活動や体験を通して～

指導者 針ヶ谷小学校 教諭 長瀬 三枝子



することや自分の座席を確かめ、行きと帰りで通路側と窓側とを交代し、不公平感のないようにするなどの工夫をしました。最後は、バス座席の再度の確認とゲームを通して低学年のまとまりを感じとらせました。話を聞くだけでなく、動くことで、参加する気持ちを高められました。

特別支援教育

「みんなで」をテーマに

関沢小学校教諭 高地 勇介

さくら学級の子どもたちは、登校すると、朝の自由時間に折り紙やパズルをしたり、校舎内を散歩したりと、好きなことをして過ごしている。五分前の予鈴で片付けを始め、朝の会の準備をする。授業が始まると、個別の課題に集中して黙々と取り組む。

振り返ってみると、一学期は、仲間と協力して課題に取り組むことは、国語と算数それぞれ最後の最後まで頑張っていた友達を発表する。「○○君が□□を頑張っていてすごかったです。」そんな言葉を聞いて、満面の笑みを浮かべるのが印象的だ。

さくら学級六名の一人一人が支え合い、助け合いながら「みんなで」成長できることを願っている。

勝瀬中学校1年

酒井 美夢



勝瀬中学校陸上部は、学校の中で一番部員数が多い(121名)部活動です。いろいろな練習メニューを先生方や先輩方が決め、1年生はいつも上級生についていっています。入部したばかりの時は、何も分からず先輩方に迷惑ばかりかけていました。練習はつらいですが、陸上部の良いところは、応援し合うということ

を使ったりするなどして遊ぶ「活動」を通して生活科の目標に近づきたいと考えました。

学級活動

そのためにまず、七月の学級活動で、「一年生とあそぼう」を提案し、めあてや遊びを話し合いで決定し、二年二組は一年二組を教室に招待しました。「一年生に優しくする、顔と名前を覚える」をめあてに、「なべなべ底抜け」「ゴロゴロドッカン」といったゲームで遊びました。めあて通り、優しく教えてあげる二年生の姿が見られ

「ファイト！」

を大切にしているところです。走っている時に、先輩が「ファイト！」と応援してくれます。全員が走り終わるまで応援している先輩方を見て、私もがんばろうと思います。これから、陸上部員同士がもっと教え合い、応援し合える部活動になるよう、先輩方を見習いがんばります。



ました。一年生の「楽しかった。ありがとう。」という感想発表に、「やってよかった。」という二年生の反応がありました。

係活動を取り入れて

続いて、二期の係活動に、「生活科見学係」を設けました。子どもたちも、楽しみにしている様子が伺えます。「一年生に教えてあげたい」「バスの中でレクをしたい」と、昨年自分たちが二年生にしてもらった経験を思い起こしていました。めあてや約束の話し合いや決定から、集会

生活科「うごくくわしのおもちや」

そのほかにも、一年生との交流を図る取組を計画的に行いました。二年生の「うごくくわしのおもちや」は、十二時間で計画されている単元です。九月の十時間で何をやるか、どんな材料が必要か

どう工夫したら動くのかを考えて、おもちや作りをしました。給食の牛乳パックを使って「パッチン蛙」を作り、一年生へのプレゼントにしました。一人ひとりが作った動くおもちゃで、十月三日には、一年生を招待して「生活科見学」のグループごとに遊びました。遊び方やなぜ動くのかを説明しながら楽しむとともに、二つの学年の仲を深めました。また、国語の「お話のさくしゃになろう」で作った絵本を一年生に貸し出して読んでもらいました。一年生と一緒に活動する機会を多く設けることで、二年生にリーダーとしての自覚が少しずつ生まれてきました。

そして迎えた「生活科見学」当日。朝の会から計画通りに進んでいきました。混雑している、集合写真やトイレに時間がかかったり、動物クイズの問題が多かったりしたために、昼食後の遊びの時間があまりとれず、もっとゆっ



指導・講評

針ヶ谷小学校校長 佐藤 公誠

生活科見学の目的は①自然や動植物とふれあう体験をすること②集団行動の基本を身に付けることで、生活科の目標(一)(二)にあたります。

この目的や目標を実現するために、一年生と二年生が絆を深めるとともに、二年生はリーダーとしての力を、一年生は協力する姿勢・態度を身に付ける必要があります。低学年担当者は、工夫した事前の諸活動を計画・実施し、一・二年生を望ましい姿に変容させてくれました。

あーちゃんと暮らして

本郷中学校保護者 洪川 岳郎

今年我が家では一つの変化がありました。昨年義父を亡くしてから一人暮らしをしてきた妻の母（通称あーちゃん）が一月に脳出血で倒れ入院治療をしていましたが、ほぼベッドの上で寝たきりの状態です。そのようなあーちゃんと同居すると妻が言い、私も子どもたちもびっくり。妻と私は共働き、大学生＆高校生、更には中三受験生。日中は巡回型の看護師さんをお願いできるとしても、その他の時間家族は何をするの、何ができる？と不安がいつぱいでした。

けれども同居生活がはじまると、子どもたちは「ただいまー」や「行ってきます」とあーちゃんに声を掛けるだけでなく、訪問看護師さんたちと仲よくしています。また、あーちゃんの体の向きを変えたり薬の準備をしたり、できる事をしています。その時の調子次第であーちゃんは反応があったりなかったりです。入院していたときはお見舞いのそのときだけを切り取っ



一緒に成長していこうと考えています。



一緒に成長していこうと考えています。

小学部の友だちや先生だけでなく、中学部や高等部の先生ともふれ合い、今までより広い社会を生き生きと歩いているように思います。

最近、家庭でいくつかの変化を感じます。常に親の手を必要としていた彼が、自ら頑張る姿を見せるのです。思い通りに事が運ばず荒んだ心持ちになったときに、気持ちを立て直し整えようとするのです。その頑張る姿を応援するのと同時に親として関われない歯がゆさも感じます。着々と育っていく彼に、親としても

リズムにのって 生き生きと

針ヶ谷小学校

針ヶ谷小学校では、毎年十一月の土曜日に、家庭や地域にも公開している校内音楽会を実施しています。九月になると練習が始まり、自分で演奏する楽器のオーディションを行います。子どもたちはオーディションで合格するため、休み時間、更に家に帰ってまで練習する子もいます。授業中、休み時間に学校のいろいろなところから、子どもたちの美しい歌声や楽器の音が聞こえてきます。

本校では、子どもたちの感性を高め、楽しく音楽活動と関わるために、十月には児童・家庭・地域へ向けた、音楽鑑賞教室を行っています。今年度はピアノ五重奏。五人のブクの演奏家に来校していただきました。ブクの演奏を目の前で聴くことができ、子どもたちにとって非常に貴重な体験となり、音楽会への意欲付けにもなりました。



本番当日は、子どもたちの合唱・合奏は聴く人々を感動させ、体育館に響き渡っていました。

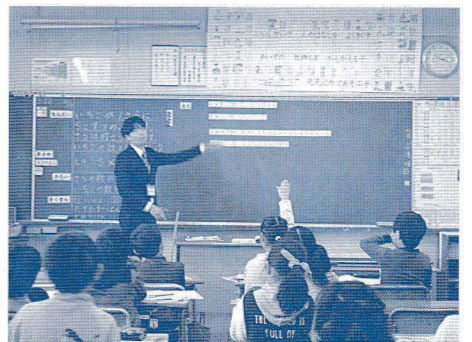
子ども自ら創り出す算数授業

水谷小学校

水谷小学校では、算数科を通して、「子ども自ら創り出す算数授業の展開」をテーマに学校研究を進めています。

第二学年の二期期には、かけ算九九の学習があります。かけ算九九は、その後の算数の学習において日々活用していく基礎となる計算です。どの子どもも暗唱できるように指導していくのですが、本校では、児童が作戦を立てて、かけ算九九の計算の仕方を自分の力で創り出す活動を取り入れ、創造する喜びを児童が感じられるようにしています。

四の段の九九の学習では、既習事項（五、二、三の段の学習）を活用します。かける数の分だけ四をたす「たしまくり作戦」、一つ前の答えに四をたす「答えたし作戦」、かける数とかけられる数を入れ替える「さかさま作戦」など、児童は自ら四の段の九九を創り出しています。



子ども自ら創り出す算数の授業を通し、「もっと学びたい」という意欲を持った児童を育てています。

息子の今

富士見特別支援学校保護者 澤 麻里

私には富士見特別支援学校に通う二年生の息子がいます。その彼のことをお話ししたいと思います。

小学校生活も二年目となり、色々な刺激を受けているようです。気持ちを上手く言葉にして伝えられないこともあり、ですが、先生方は彼の気持ちに寄り添い、言葉を引き出すように接してくださいます。学校での取組の中で、彼が

未経験なことにはどんな反応をするか、親として多少の不安を感じることはありません。しかし、さまざまな体験学習から社会性を学び、いろいろな学校行事から人との繋がりがや物事のあり方を学んでいることは、何よりもうれしいことです。

彼は今、家という枠を一步踏み出しました。そして、学校としての特質もありますが、

交通指導員になって感じたこと

水谷東小学校交通指導員 小熊 賀代子

「おはようございます」「いってらっしゃい」

毎朝、子どもたちや通学通学の方や地域の方にあいさつをしています。

富士見みずほ幼稚園前の交差点の横断歩道の脇に立ち、安全に登校できるよう交通指導員をしています。水谷東小学校と水谷中学校が並び、スクールゾーンになっている道路なので、国道から侵入してくる違反車両がないか、注意深く目を配っています。

一年目の当時、水谷東小学校のPTA本部役員の一員として活動していましたので、私を知っている子どもたちは、「なんでここにいるの?」と不思議な顔をしていました。保護者の方にも驚かれましたが、「知っている人が立っていてくれるから安心ね。」の言葉をいただき、とてもうれしかったです。

そんな私の密かな楽しみは、子どもたちや地域の方との会話です。子どもの方から話しかけてくれることもあり、一分足らずの時間を楽しんでいます。保護者として学校へ行くと、朝いつも立っている

おばさんと声をかけてくれる子どももいて、うれしく思っています。

交通指導員を始めた当時、小学五年生の長女と小学三年生の長男も今では中学二年生と小学六年生に成長し、私の前を通って登校していくのもあと少しかと寂しく思うこともあります。これからも交通指導員として、一保護者として、母として子どもたちの安全を守っていこうと思います。



人間尊重・私の主張

人権問題について

障がい者の人権について



本郷中学校 二年 鈴木 麻央

今と昔、障がい者に対する見方は変わったのでしょうか。私は変わったと思っています。

わたしは生まれつき、脳性まひという障がいをもっています。いわゆる「障がい者」です。こんな私は今、普通の中学二年生です。けれど、ここまでくるにはたくさんの人たちの支えがありました。

私は、最初、病院の先生に「歩くことは難しい」と言われたそうです。けれどそれを聞いて、父と母は黙っていませんでした。私は、二歳から障がい者が行く保育園のようなところに通い始めました。普通の二歳というところ、少し歩けていたと思うけれど、私は歩けずになりました。しかし、毎日のようにリハビリの先生や父、母と歩く練習をしました。その結果、四歳くらいの頃、一人で歩けるようになりました。その時はみんな喜んでくれて、

人間尊重教育推進

わたしたちのまちに 育てよう 人間尊重の心 広げよう

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだの健康を高めよう」
「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」
「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」
と呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのです。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとりの子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されており、活用ください。

家庭、学校・行政が力を合わせ、一体となつて子どもたちの健全な育成に努力していきましょう。

富士見市 いじめのない学校づくり子ども宣言

《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動が心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「遊び半分では相手を傷つけるようなことはしてはいけません。」と注意します。
- 私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。
- 私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。
- 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願いします。
- 私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、「いじめはだめだ。」とつたえ続けます。

《中学校宣言》

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。
- 私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。
- 私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよ。」と声をかけていきます。
- 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりちゃんと理解して、良くなかったら注意をしてください。」とお願いします。
- 私たちは、仲間を大切にして、いじめを撲滅する努力をします。

家庭における人間尊重教育十か条

- 一人のいのちを大切にしよう
- 健康を大切にしよう 正しい食事と適度な運動でからだづくりにつとめよう
- おはよう、おやすみ、ただいま、おかえりのことが聞こえる温かい家庭をつくりましょう
- ありがとう、ごころうさまの素直な言葉で感謝の心を育てよう
- 家族の仕事を手伝おう
- 家族の一員としての役割をはたしましょう
- 人の喜びを喜びとし、人の心の痛みを分かちあい助けあうよう
- やさしさ、いたわりの心を大切にしよう
- おとしよりの方々に学びましょう
- どんな物も人の汗と力のできることを知り物を大切にしよう
- 正しくやさしいことばでつづかれた明るい家庭をつくりましょう
- 正しいことをつらぬく強い心で勇気ある行動をとりましょう

人間尊重 わたしたちの合言葉

- 笑顔の種 まいて さかせて また次へ
 (つるせ台小学校 五年 勝島 琉衣)
- ごめんねは 心をつなぐ バトンだよ
 (東中学校 一年 江口 未来)
- はがそうよ いじめのシール ベリベリと
 (勝瀬小学校 五年 世田 直己)
- 見ぬふりは 自分の心も 傷つける
 (東中学校 一年 嶋田 羽奈)
- もしかして その一言が 原因で
 (勝瀬中学校 一年 安倍 美鈴)
- ありがとう その一言を たいせつに
 (鶴瀬小学校 五年 青木 優果)
- 「やめようよ」 勇気をだせば 変わるかも
 (関沢小学校 五年 中山 新菜)

入間郡市間対策協議会
入間地区人権教育推進協議会
富士見市人権教育推進協議会
平成二十九年産業作品より

私もすぐうれしかったです。その年の三月、私は園を卒園し、幼稚園に年中から入りました。私を受け入れてくれたその幼稚園には本当に感謝しています。

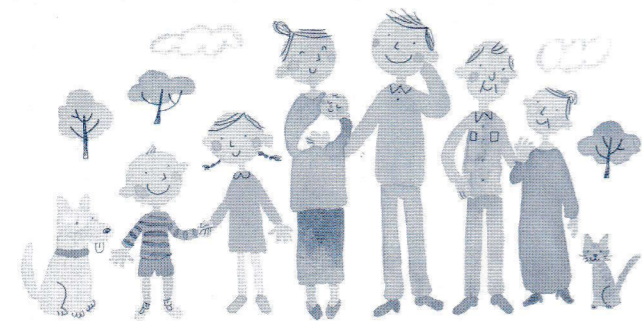
そして、小学生になりました。私は通常学級に通っていたので、友達がどんどんできていきました。でも、私の友達の中には、歩くこともしゃべることもできない子もいて、その子たちのことを考えると胸が痛みます。

障がい者に対する人権とは、私が思うには障がい者だからといって特別扱いしないことじゃないかなと思います。私は障がい者だからという理由だけで物事を左右されるのは違うんじゃないかなと思います。私たち障がい者にだって物事の決定権はあると思うし、それを本人に決断してもらおうのも一つの人権だと思ふからです。私も障がい者だけど、自分で決断してと言われることがほとんどです。

だから、特別扱いをせず、普通の人と会うようなイメージで触れ合ってほしいです。それがきつと、障がい者にとっても健常者にとっても大切な経験になると思います。

私には目標があります。それはもつと障がいを知ってもらえて、障がい者の手伝いができる仕事です。少しでも障がい者と人生を共にできる仕事をしたいなと思っています。

私には目標があります。それはもつと障がいを知ってもらえて、障がい者の手伝いができる仕事です。少しでも障がい者と人生を共にできる仕事をしたいなと思っています。



教育委員会だより

◆富士見市高等学校等入学準備金利子補給のご案内

この制度は、高校、専修学校、専門学校、短期大学及び大学等へ入学する方の保護者で、日本政策金融公庫の教育一般貸付(入学資金)を受けた方に対し、市がその返済利子の一部又は全部を助成し、経済的負担の軽減を図るものです。

◇申請

随時受付。ただし、入学後の申請は、補助金の一部が対象とならない場合があります。

◇利子補給対象者

- (1) 市内在住の方
- (2) 市税(市県民税、固定資産税、軽自動車税)を滞納していない方
- (3) 日本政策金融公庫の教育一般貸付(入学資金)を受けている方

◇利子補給額

対象額は、融資額の内70万円以内の額を限度とします。利子補給額は、融資を受けた利率で、元利均等月賦償還、据置期間なしとして計算します。

◇利子補給期間

教育一般貸付の融資を受けた日の属する月の翌月から5年を限度とします。

◇申込み・問合せ

教育委員会教育政策課まで(富士見市立中央図書館2階)
電話 049-251-2711(内線612)

※教育一般貸付の融資に関する問合せは、日本政策金融公庫へ

- ・日本政策金融公庫 川越支店
〒350-1123
川越市脇田本町14番1 日本生命ビル5階
電話 049-246-4171(申込み相談)
- ・国の教育ローンコールセンター
電話 0570-008656(ナビダイヤル)

【例】

金利1.81%(平成29年度11月1日現在)で70万円を借りた場合、約3万2千円助成されます。



私は、元気な声で国語の本などを繰り返し音読させることが大切だと思っています。また、大人と一緒に音読をしてみることが、上達のポイントだと思います。大人の音読を聴きながら、自然に息継ぎや文の切れ目を身につけられるからです。さらに音読は、内気な性格を外交的にさせるとも言われています。お子さんと一緒に本を開き、声を出して本を読んでみてはいかがでしょうか。

(庄司)



当たり前のように湧き上がる拍手、自然に聞こえる「おつかれ」や「頑張ろう」などの励まし、時には相手を讃える声。今年度、東中学校に異動し、三年生の担任になり、

変わっていききました。五月に行われた体育祭、最上級生となった生徒たちは、私に東中の体育祭について、丁寧に説明してくれました。当日は、最上級生らしい姿を

任でよかったですと改めて実感した瞬間でした。冒頭に書いた、当たり前のように湧き上がる拍手。「今日は○○君(さん)の誕生日です。せーの」一斉に全員が歌

い出し、歌い終わると、「おめでとう」の言葉と同時に大きな拍手をします。誰かが何かに選ばれれば、仲間を讃える拍手が起ります。体育祭であれば、体育委員を、合唱祭であれば、合唱祭実行委員を、どのような結果であれ、必ず最後には「ありがとう」と感謝の気持ち込め拍手をします。拍手をするということとは、「相手を認める」とことと私は考えます。

三年三組は、互いを認め合える、讃え合うことが自然とできるクラスです。

認め合う素晴らしさ

東中学校教諭

小林 紗希



不安な気持ちでスタートした私は、これまでの経験をどのように活かせるか不安でした。しかし、三年三組の生徒たちと過ごす時間が増えることに、その不安は、楽しさや期待に

様々な場面で見せてくれました。優勝できなかった悔しさを、素直に表現し、涙する生徒たち。人前で泣ける、そんな温かいクラス。このクラスの担

い出し、歌い終わると、「おめでとう」の言葉と同時に大きな拍手をします。誰かが何かに選ばれれば、仲間を讃える拍手が起ります。体育祭であれば、体育委員を、合唱祭であれば、合唱祭実行委員を、どのような結果であれ、必ず最後には「ありがとう」と感謝の気持ち込め拍手をします。拍手をするということとは、「相手を認める」とことと私は考えます。

編集日記

教室から元気よく音読をする子どもたちの声が毎日のように聞こえてきます。教室に入ると確かに大きな口を開けて元気よく音読をしている子がほとんどですが、数人、口が開かずにボソボソと音読をしている子がいます。「昨日は音読の練習はできたの?」と聞いてみると、首を横に振ります。